

2025年7月からの1年で16店の
キーパーラボフランチャイズ店が開店しました

この数は、キーパーラボ直営店の出店数(13店)を上回る新記録で、勢いが加速しています！

KeePer LABOについてのご連絡をお待ちしております！
お気軽にお電話ください！
直通電話番号：
090-2576-4602(鈴置)



盛岡店



青森店



国分寺店



大和店



札幌インター店



栗東店



釧路店



つくば店



浜松店



仙台錦ヶ丘店



枚方長尾店



鹿児島店



福岡南店



越谷レイクタウン店



廿日市店



横浜鶴ヶ峰店

AUTOBACS SUPER GT 2026 SERIES 第5戦／8/22(土)・23(日) 鈴鹿サーキット(三重県)

#38 KeePer CERUMO GR Supra

悔しくも、5位でフィニッシュ

公式練習で不運なクラッシュに見舞われてしまったものの、小林利徳選手が大健闘の予選7番手につけ、迎えた決勝。スタートドライバーは小林選手。きっちりと7番手を守りながらレースを展開。しかし10周目には#24 KONDO RACINGにオーバーテイクを許すなど、激しいバトルに巻き込まれていく。一方で、序盤小林選手の足を走っていた#19 TGR TEAM WedsSport BANDOがスローダウンを喫したことで、ふたたび順位は7番手に。16周目にフルコースイエローが導入。翌週の解除直後からGT500クラスでは続々とピットに入る車両が出てきた中でピットインを遅らせ、クリアになったコースをブッシュするオーバーカット作戦を採る。小林選手はブッシュを続けピットイン。大湯都史樹選手に交代した。

アウトラップで、先にピットイン後続から迫った#24 KONDO RACINGを抑えるバトルを展開。コースに戻ると実質6番手となり、#23 NISMO、#12 TEAM IMPULに挟まれながら、3台のバトルを続けていく。オーバーテイクを仕掛けていったものの、レース終盤は少しずつその差が開いていってしまう。逆に#12 TEAM IMPULとも差が開き、大湯選手は単独走行。レース終盤の47周目には130RでGT300車両がクラッシュ。即座にフルコースイエローが導入され、さらにセーフティカーに切り替えられることになったが、そのままレースは再開されないままフィニッシュ。5位でレースを終えることになった。



#61 SUBARU BRZ R&D SPORT

鈴鹿で見たセットアップの課題

予選では3番手のポジションを獲得。しかし、チームはマシンのセットアップで足りない部分があることも理解しており、予選終了後にセットアップを変更して決勝に臨む。レース前のウォームアップ走行では、コンディションの異なるタイヤをフロントに履き、マシンバランスのチェックを行う。最初に井口卓人選手が走行し、全体2番手のタイムを出し、計測終了後に山内英輝選手に代わり、別のタイヤで走行。しかし全体11番手のタイムで課題の解決とまではいかなかった。決勝ではBRZ GT300を含めトップ4台が全体をリードすることが予想され、その中にとどまる、あるいは抜け出す展開に期待がかかる。

スタートは井口選手が担当し、直後の1コーナーから逆バンクにかけて2位争いをサイド・バイ・サイドで繰り広げる走りを見せるが、2位を奪うことはできず3位をキープして周回を重ねる。

6周もするとタイヤのグリップが落ち、井口は暴れるBRZ GT300を抑え込む走りになり、次第に後続車に交わされていく。14周目には#45 FERRARI 296 GT3 EVOからブッシュされ痛恨のスピンのコースアウトしたBRZ GT300はこの時点で勝負権を失ってしまった。



SUPER GT 2026 スケジュール

Rd.	日程	開催サーキット
第6戦	9/19(土)・20(日)	スポーツランドSUGO(宮城県)
第7戦	10/17(土)・18(日)	オートポリス(大分県)
第8戦	11/7(土)・8(日)	モビリティリゾートもてぎ(栃木県)

KYOJ

第3戦／9/5(土)・6(日) 富士スピードウェイ(静岡県)

決勝、松井沙麗選手は7番手からスタート。積極的にでありながらクリーンなバトルを見せ、5位フィニッシュ！
レースを重ねるごとにステップアップ！！



公式予選は、全車ドライタイヤでの走行となった。セッションが進むにつれて路面は乾き、刻々と変化するコンディションへの対応力が問われる。序盤から速さを見せたのは下野璃央選手(86)。しかし

し路面が乾き始めた終盤に、松井沙麗選手(3)、斎藤愛未選手(36)、翁長実希選手(7)らもタイムを伸ばすなか、最後のアタックで富下李央菜選手(39)がトップに浮上。下野選手もチェッカー直前の最終アタックで自己ベストを更新するも富下選手にはわずか0.146秒届かず。富下選手がポールポジションを獲得した。

その後のスプリントレースの結果は、富下選手がポールポジション、下野選手が2番手、斎藤選手が3番手、チコンテ選手が4番手、松井選手は6番手。

迎えた決勝。富下選手が巧みな加速でトップを

守ったが、下野選手がすぐさま接近。ストレートで富下選手にプレッシャーをかけると、GRコーナーへのブレーキングでインを突き、トップを奪取。一方、その後方では随所でバトルが展開。チコンテ選手に佐藤こころ選手(38)が迫り、さらに松井選手、ペイジ・ラダッツ選手(11)らもポジションを争う。終盤には2番手の富下選手と3番手の斎藤選手による争いも激化。しかし、トップの下野選手は最後まで安定したペースを維持し、15周を33分22秒737で走り切ってチェッカーフラッグ。松井選手は5位でフィニッシュ。レースごとに見事な走りっぷりで

ステップアップを重ね、大健闘。来シーズンは確実にトップレーサーに仲間入りをしよう。引き続き、応援のほどよろしくお願い致します！

【今後のスケジュール】
第4戦10月10日(土)・11日(日)
第5戦10月31日(土)・11月1日(日)
※会場はすべて富士スピードウェイです

